

## 2013 年度事業計画

### 第1 一般事業

#### 1. 調査研究の推進

##### (1) ドクターヘリを活用した AACN 救急医療支援システムの研究

「AACN 救急医療支援サービス研究会」の 2012 年度活動で明らかになった課題について、関係機関の専門家による作業グループ (WG) を立ち上げ、さらに詳細議論を重ねる。具体的には、①車両側事故情報収集、②最適な通信方法検討、③傷害推定アルゴリズム開発、④傷害情報表示・転送システム構築、⑤救急側対応システム構築、等々を検討することによって、AACN 救急医療支援システムを実働させるためのロードマップを作成する。

##### (2) HEM-Net シンポジウム「ドクターヘリ運用の多様化—地域医療、周産期・小児医療との連携」(仮称) の開催

ドクターヘリのサービスを全国どこでも提供できる体制が整いつつある状況に鑑み、ドクターヘリの運用を多様化して、例えば、地域医療、ないしは、周産期・小児医療等、他部門の医療を支援するためにドクターヘリをどのように活用できるかを検討することは、時宜に適したことと思われる。

そこで、「ドクターヘリ運用の多様化—地域医療、周産期・小児医療との連携」(仮称) と題するシンポジウムを開催する。

##### (3) ドクターヘリ通信システムの研究 (継続)

2012 年度に行った調査研究において、ドクターヘリ通信システムに関しては、技術的、経済的、法規的な問題が複雑にからみあう状況が見て取れたので、2013 年度は、これらの問題を解決し如何にして合理的なシステムを構築するか、民間の専門家の応援を求め、関係省庁の意見も聞きながら、調査と研究を進めたい。

##### (4) ドクターヘリ運航費用への医療保険の適用のあり方に関する調査研究 (継続)

本件については、「ドクターヘリ推進議員連盟」の二度にわたる決議にもかかわら

ず、行政当局の検討が進まないこともあって、頓挫した形になっているが、行政当局の動きを見ながら、調査研究会の立ち上げなど、必要な作業を進めることとする。

## 2. 情報の発信

### (1) 「ITS 世界会議 TOKYO2013」への参加（ショーケースへの出展等）

未来の先進的 I T S 救急医療支援技術を訴求するため、先進事故自動通報システム（AACN）、救急医療支援情報流通システム（GEMITS）、災害救援航空機情報共有ネットワーク（D-NET）などのシステムを本ショーケースの場で有機的に統合・連携させたデモを実施する。

### (2) ヘムネットホームページの「データバンク」の充実

ヘムネットホームページに設けられた「データバンク」については、逐次、搭載内容を整備してきたところであるが、本年度は、必要な予算を投入して内外の資料を収集し、搭載内容の一層の充実を図る。

### (3) HEM-Net グラフの発刊

2013 年度も、日本損害保険協会および JA 共済連の助成を受けて、広報誌「HEM-Net グラフ」を、時宜をとらえた特集を組み合わせながら、年 4 回を目途に発刊する。

### (4) 各種広報宣伝活動等の展開

各地域の市民団体・報道機関等と連携して、一般市民を対象とする「ドクターヘリ市民講座」を開催して、ドクターヘリの普及宣伝に努める。

また、各地域の救急医療関係者等と連携して、ドクターヘリの効果的な運用に関する「ドクターヘリ研究会」を、主催し、共催し、または、それに積極的に参加する。

## 3. ネットワークの拡大

### (1) 賛助会員・寄付者の拡大

引き続き、賛助会員・寄付者の拡大に努める。特に、企業の CSR 活動の活発化の傾向をとらえて、企業からの寄付の拡大を図る。

## (2) 関連団体との連携の強化

引き続き、「ドクターヘリ推進議員連盟」および「ドクターヘリ普及促進懇談会」と緊密に連絡をとり、両団体から、最大限の協力と支援が得られるように努める。

また、日本航空医療学会、日本救急医学会、救命救急センター設置病院、全国消防長会、全国航空消防防災協議会、日本医師会、日本病院会等との連携を強化する。

特に、日本航空医療学会に設置された「ドクターヘリ運航調整協議会」の活動に積極的に参画する。

## 第2. ドクターヘリ支援事業（助成金交付事業）

「ドクターヘリ支援基金」の適正な管理に努め、「ドクターヘリ普及促進懇談会」と密接に連絡をとりながら、次のとおり、「ドクターヘリ支援事業」を推進する。

### 1. ドクターヘリ搭乗医師・看護師等研修助成事業の推進

2010年度から実施されている本事業は、2012年末において、既に120名を越える研修修了者を出し、おおむね所期の目的を達しつつある一方、ドクターヘリの新規の導入も一段落し、2013年度中にドクターヘリの導入を予定している道府県は、広島県、兵庫県（2機目）、佐賀県など、3～4道府県に止まる状況にある。

そうした状況も踏まえて、2013年度の研修実施計画人員は、医師20名、看護師15名の計35名とし、必要予算2,000万円を計上することとしたい。

### 2. ドクターヘリ運航基地病院における「安全研修会」の開催の推進

本安全研修会の2012年度開催実績は、5病院であったが、2013年度については、3月までに、既に7病院において、実施の計画が固まっており、少しずつ、各運航基地病院の開催機運も向上しつつあるので、2013年度中の計画箇所を、10病院とする予算を計上して、研修会の開催を懇願していくこととしたい。